

事業者の皆さまへ

抜 粋

節電アクション

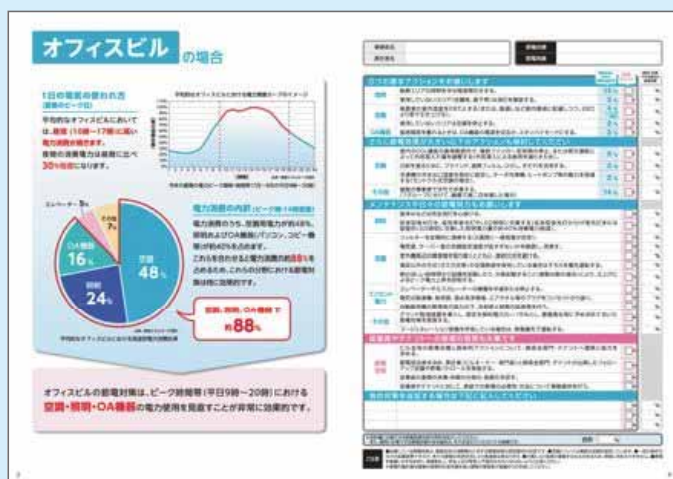
資源エネルギー庁



この夏の節電のために 本「節電アクション」をご活用下さい。

本書の使い方

- 電力消費が特徴的で、かつ汎用的な利用が可能な8業種について、標準的な節電アクション及び効果目安をお示ししています。チェックを行いながら、節電の取組についてご検討いただけます。
- 該当する業種(該当するものがない場合には電力消費の構造が近いと考えられる業種)の節電アクションを利用し、節電への取組チェックをお願いします。



目次

- オフィスビル・・・P3、4
- 卸・小売店・・・P5、6
- 食品スーパー・・・P7、8
- 医療機関・・・P9、10
- ホテル・旅館・・・P11、12
- 飲食店・・・P13、14
- 学校・・・P15、16
- 製造業・・・P17、18
- 記入例・・・P19、20

(参考)

政府の節電ポータルサイト「節電.go.jp」を活用して、節電行動計画を自主的に策定・公表いただいた方は、「節電宣言ステッカー」・「節電宣言ポスター」の活用が可能です。

「節電宣言ステッカー」・「節電宣言ポスター」を目につく場所に貼り、店舗の利用者や従業員の方々に周知する際にお役立て下さい。

政府の節電ポータルサイト(事業者向け) <http://jigyo.setsuden.go.jp>



印刷用ステッカー

職場やお店に掲出するためのステッカーです。印刷してご活用ください。

▶ 印刷用データを表示する

「節電宣言ステッカー」事業者毎のステッカーが作成されます。ダウンロードしご活用下さい。



PRバナー

登録していただいた登録者ページを紹介するためのバナーです。ぜひホームページなどに貼ってご活用ください。

正方形バナー(250x250px)

以下のタグをHTMLのソースコードに追加してください。

```
<div id="jigyo-setsuden-go-banner"></div>  
<script src="http://www.setsuden.go.jp/js/setsuden-go-banner.js"></script>
```

▶ コピーする

節電宣言ポスター



節電宣言ポスター

節電行動計画を記入し、オフィスや店舗内に掲載するためのポスターです。

▶ PDFをダウンロードする

▶ PPTをダウンロードする

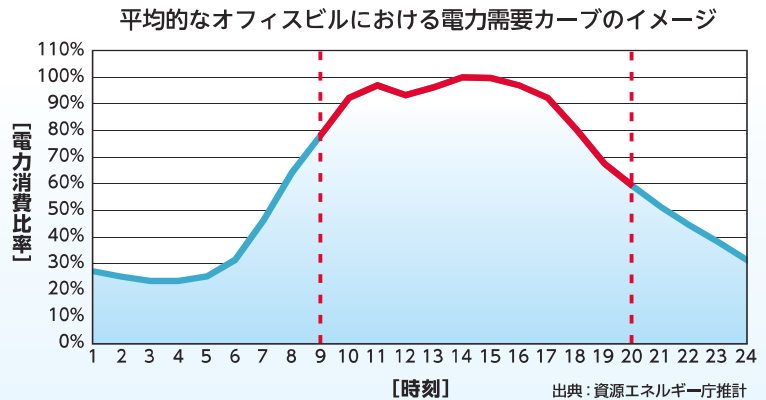
ステッカー&ポスター
展開イメージ



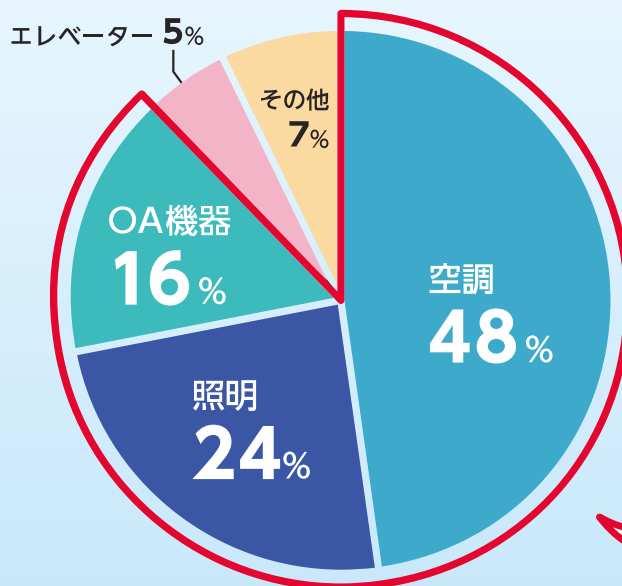
オフィスビルの場合

1日の電気の使われ方 (夏期のピーク日)

平均的なオフィスビルにおいては、**昼間（10時～17時）に高い電力消費が続きます。**
夜間の消費電力は昼間に比べ**30%程度**になります。



今年の夏期の電力ピーク期間・時間帯（7月～9月の平日9時～20時）



出典：資源エネルギー庁推計

平均的なオフィスビルにおける用途別電力消費比率

電力消費の内訳（ピーク時:14時前後）

電力消費のうち、空調用電力が約48%、照明およびOA機器（パソコン、コピー機等）が約40%を占めます。
これらを合わせると電力消費の約**88%**を占めるため、これらの分野における節電対策は特に効果的です。

空調、照明、OA機器で
約**88%**

オフィスビルの節電対策は、ピーク時間帯（平日9時～20時）における**空調・照明・OA機器**の電力使用を見直すことが非常に効果的です。

事業者名		節電目標	
責任者名		節電実績	

5つの基本アクションをお願いします			建物全体に 対する 節電効果目安	取組 チェック	個別に計算 できる場合の 節電目標
照明	執務エリアの照明を半分程度間引きする。	13 %	☐ 1	%	
	使用していないエリア(会議室、廊下等)は消灯を徹底する。	3 %	☐ 2	%	
空調	執務室の室内温度を28℃とする(または、風通しなど室内環境に配慮しつつ、28℃より若干引き上げる)。	4 % (+2℃の場合)	☐ 3	%	
	使用していないエリアは空調を停止する。	2 %	☐ 4	%	
OA機器	長時間席を離れるときは、OA機器の電源を切るか、スタンバイモードにする。	3 %	☐ 5	%	
さらに節電効果が大きい以下のアクションも検討してください					
空調	室内のCO ₂ 濃度の基準範囲内で、換気ファンの一定時間の停止、または間欠運転によって外気取入れ量を調整する(外気導入による負荷を減らすため)。	5 %	☐ 6	%	
	日射を遮るために、ブラインド、遮熱フィルム、ひさし、すだれを活用する。	3 %	☐ 7	%	
	冷凍機の冷水出口温度を高め設定し、ターボ冷凍機、ヒートポンプ等の動力を削減する(セントラル式空調の場合)。	2 %	☐ 8	%	
その他	複数の事業者で交代で休業する。 (7グループに分けて、輪番で週二日休業した場合)	14 %	☐ 9	%	
メンテナンスや日々の節電努力もお願いします					
照明	昼休みなどは完全消灯を心掛ける。		☐ 10	%	
	従来型蛍光灯を、高効率蛍光灯やLED照明に交換する(従来型蛍光灯からHf蛍光灯または直管形LED照明に交換した照明電力量の約40%消費電力削減)。		☐ 11	%	
空調	フィルターを定期的に清掃する(2週間に一度程度が目安)。		☐ 12	%	
	電気室、サーバー室の空調設定温度が低すぎないかを確認し、見直す。		☐ 13	%	
	室外機周辺の障害物を取り除くとともに、直射日光を避ける。		☐ 14	%	
	電気以外の方式(ガス方式等)の空調熱源を保有している場合はそちらを優先運転する。		☐ 15	%	
	朝の涼しい時間帯から設備を起動したり、分散起動すること(複数台数の場合)により、立上げによるピーク電力上昇を抑制する。		☐ 16	%	
コンセント 動力	エレベーターやエスカレーター稼働を半減または停止する。		☐ 17	%	
	電気式給湯機、給茶器、温水洗浄便座、エアタオル等のプラグをコンセントから抜く。		☐ 18	%	
	自動販売機の管理者の協力の下、冷却停止時間の延長等を行う。		☐ 19	%	
その他	デマンド監視装置を導入し、設定を契約電力の△15%とし、警報発生時に予め決めておいた節電対策を実施する。		☐ 20	%	
	コージェネレーション設備を所有している場合は、発電優先で運転する。		☐ 21	%	
従業員やテナントへの節電の啓発も大事です					
節電 啓発	ビル全体の節電目標と具体的アクションについて、関係全部門・テナントへ理解と協力を求める。		☐ 22	%	
	節電担当を決め、責任者(ビルオーナー・部門長)と関係全部門・テナントが出席したフォローアップ会議や節電パトロールを実施する。		☐ 23	%	
	従業員の夏期の休業・休暇の分散化・長期化を促す。		☐ 24	%	
	従業員やテナントに対して、家庭での節電の必要性・方法について情報提供を行う。		☐ 25	%	
独自対策を追加する場合は下記に記入してください					
			☐ 26	%	
			☐ 27	%	
			☐ 28	%	

※合計欄には実行する節電効果目安の合計を記入してください。
また、個別に計算できる節電目標がある場合は、それを加えていただいても結構です。

ご注意 ●記載している節電効果は、建物全体の消費電力に対する節電効果の想定割合の目安です。●空調については電気式空調を想定しています。●一定の条件の元での試算結果ですので、各々の建物の利用状況により削減値は異なります。●方策により効果が重複するものがあるため、単純に合計はできません。●節電を意識しすぎると、保健衛生上、安全上及び管理上不適切なものとならないようご注意ください。
※節電行動計画は建物の実質的な使用責任者と建物の管理者が協議のうえ作成してください。

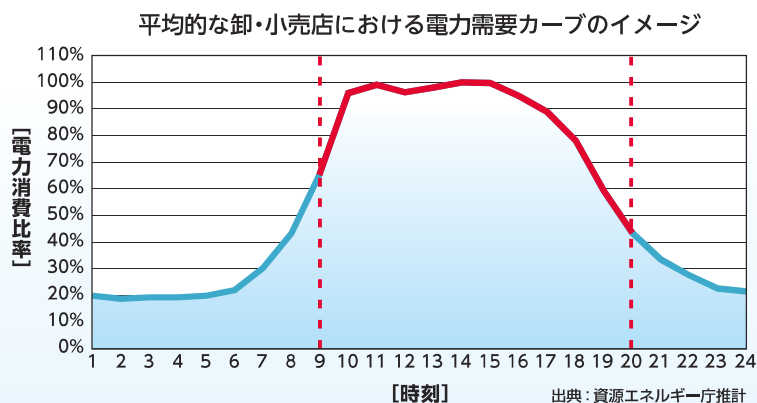
卸・小売店

の場合

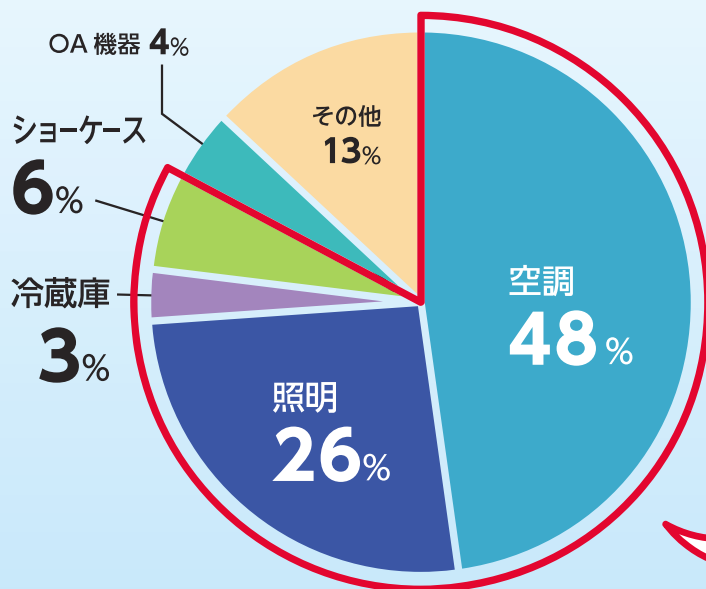
1日の電気の使われ方 (夏期のピーク日)

平均的な卸・小売店においては、**昼間(9時～17時)に高い電力消費が続きます。**

夜間の消費電力は昼間に比べ**20%程度**になります。



今年の夏期の電力ピーク期間・時間帯(7月～9月の平日9時～20時)



出典：資源エネルギー庁推計

平均的な卸・小売店における用途別電力消費比率

電力消費の内訳 (ピーク時:14時前後)

電力消費のうち、空調が約48%、照明が約26%、冷凍冷蔵(冷蔵庫、ショーケース等)が約9%を占めます。

これらを合わせると電力消費の約**83%**を占めるため、これらの分野における節電対策は特に効果的です。

空調、照明、冷凍冷蔵で
約83%

卸・小売店の節電対策は、ピーク時間帯(平日9時～20時)における**空調、照明、冷凍冷蔵(冷蔵庫、ショーケース等)**の電力使用を見直すことが非常に効果的です。

事業者名		節電目標	
責任者名		節電実績	

4つの基本アクションをお願いします			建物全体に 対する 節電効果目安	取組 チェック	個別に計算 できる場合の 節電目標
照明	店舗の照明を半分程度間引きする。	13 %	☐ 1	%	
	使用していないエリア(事務室、休憩室等)や不要な場所(看板、外部照明、駐車場)の消灯を徹底する。	2 %	☐ 2	%	
空調	店舗の室内温度を28℃とする(または、風通しなど室内環境に配慮しつつ、28℃より若干引き上げる)。	4 % (+2℃の場合)	☐ 3	%	
冷凍 冷蔵	業務用冷蔵庫の台数を限定、冷凍・冷蔵ショーケースの消灯、凝縮器の洗浄を行う。	1 %	☐ 4	%	
さらに節電効果が大きい以下のアクションも検討してください					
空調	室内のCO ₂ 濃度の基準範囲内で、換気ファンの一定時間の停止、または間欠運転によって外気取り入れ量を調整する(外気導入による負荷を減らすため)。	8 %	☐ 5	%	
その他	ピーク時間を避けるため、営業時間や営業日を短縮・シフトする。 (系列5店舗間で輪番平日一日休業または営業時間短縮した場合。)	10 %	☐ 6	%	
メンテナンスや日々の節電努力もお願いします					
照明	従来型蛍光灯を、高効率蛍光灯やLED照明に交換する(従来型蛍光灯からHf蛍光灯または直管形LED照明に交換した照明電力量の約40%消費電力削減)。		☐ 7	%	
空調	使用していないエリア(事務室、休憩室等)は空調を停止する。		☐ 8	%	
	フィルターを定期的に清掃する(2週間に一度程度が目安)。		☐ 9	%	
	日射を遮るために、ブラインド、遮熱フィルム、ひさし、すだれを活用する。		☐ 10	%	
	搬入口やバックヤードの扉を必ず閉め、売場の冷気流出を防止する。		☐ 11	%	
	電気以外の方式(ガス方式等)の空調熱源を保有している場合はそちらを優先運転する。		☐ 12	%	
冷凍 冷蔵	調理機器、冷蔵庫の設定温度の見直しを行う。		☐ 13	%	
	冷凍・冷蔵ショーケースの吸込み口と吹出し口には商品を置かないようにすると共に、定期的に清掃する。		☐ 14	%	
	オープン型の冷凍・冷蔵ショーケースについては、冷気が漏れないようビニールカーテンなどを設置する。		☐ 15	%	
コンセント 動力	デモンストレーション用の家電製品などはできる限り電源をオフにする。		☐ 16	%	
	電気式給湯機、給茶器、温水洗浄便座、エアタオル等のプラグをコンセントから抜く。		☐ 17	%	
	自動販売機の管理者の協力の下、冷却停止時間の延長等を行う。		☐ 18	%	
その他	デマンド監視装置を導入し、設定を契約電力の△15%とし、警報発生時に予め決めておいた節電対策を実施する。		☐ 19	%	
	コージェネレーション設備を設置している場合は、発電優先で運転する。		☐ 20	%	
従業員への節電の啓発も大事です					
節電 啓発	店舗全体の節電目標と具体的アクションについて、従業員へ理解と協力を求める。		☐ 21	%	
	節電担当者を任命し、責任者(店長、部門長など)と関係全部門が出席したフォローアップ会議や節電パトロールを実施する。		☐ 22	%	
	従業員に対して、家庭での節電の必要性・方法について情報提供を行う。		☐ 23	%	
独自対策を追加する場合は下記に記入してください					
			☐ 24	%	
			☐ 25	%	
			☐ 26	%	

※合計欄には実行する節電効果目安の合計を記入してください。
また、個別に計算できる節電目標がある場合は、それを加えていただいても結構です。

合計 %

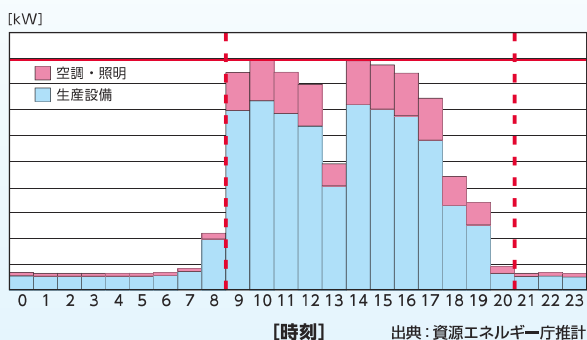
ご注意 ●記載している節電効果は、建物全体の消費電力に対する節電効果の想定割合の目安です。●空調については電気式空調を想定しています。●一定の条件の元での試算結果ですので、各々の建物の利用状況により削減値は異なります。●方策により効果が重複するものがあるため、単純に合計はできません。●節電を意識しすぎるあまり、保健衛生上、安全上及び管理上不適切なものとならないようご注意ください。
※節電行動計画は建物の実質的な使用責任者と建物の管理者が協議のうえ作成してください。

製造業の場合

1日の電気の使われ方（夏期のピーク日）

●昼間操業の需要家（一般的な稼働時間）

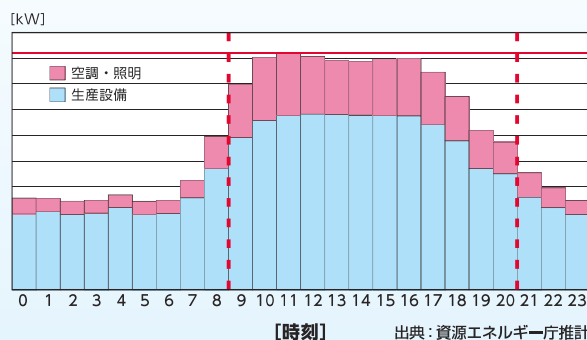
主な業種：金属加工、自動車部品製造、
電気・一般機械製造（組立）など
負荷設備：生産機械、電気炉、空調・照明など



今年の夏期の電力ピーク期間・時間帯（7月～9月の平日9時～20時）

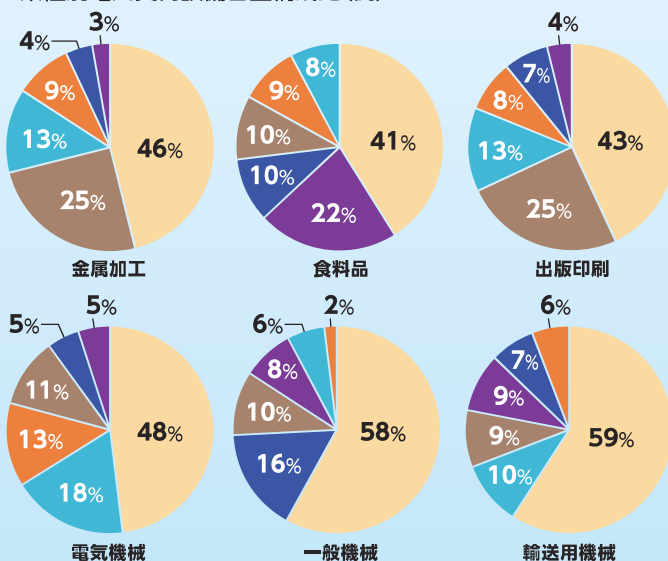
●昼夜連続操業の需要家（高い稼働時間）

主な業種：食品加工、電気・半導体製造など
負荷設備：生産機械、空調・照明、クリーンルーム、
冷凍・冷蔵設備など



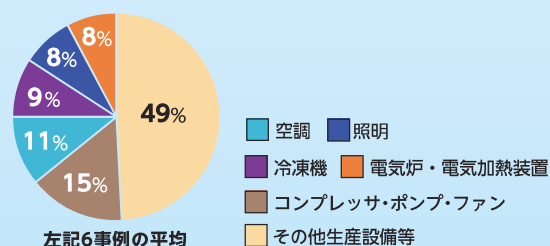
今年の夏期の電力ピーク期間・時間帯（7月～9月の平日9時～20時）

業種別電気負荷設備容量構成比（例）



電力消費の内訳（ピーク時：14時前後）

電力消費のうち、生産設備が占める割合が高いため、生産工程の節電対策は特に効果的です。業種（生産品目）や必要な生産環境（空調）に応じて電力消費形態が異なります。



製造業の節電対策は、ピーク時間帯（平日9時～20時）における
生産用動力の稼働シフトなどにより

生産設備の電力使用を見直すことが非常に効果的です。

事業者名		節電目標	
責任者名		節電実績	

生産設備の節電メニュー		ピーク時間の 電力消費内訳 【構成比%】	×	機械・設備毎の 節電効果目安	=	建物全体に対する 節電効果目標※ ※小数点2位以下は 四捨五入	取組 チェック	個別に計算 できる場合の 節電目標
不要または待機状態にある電気設備の電源オフ及びモーター等の回転機の空転防止を徹底する。		49 %	×	() %	=	() %	☒ 1	%
電気炉、電気加熱装置の断熱を強化する。 (節電効果:保温施工の実施例)		8 %	×	7 %	=	0.6 %	☒ 2	%
ユーティリティ設備の節電メニュー								
使用側の圧力を見直すことによりコンプレッサの供給圧力を低減する。 (節電効果:単機における0.1MPa低減時)		15 %	×	8 %	=	1.2 %	☒ 3	%
コンプレッサの吸気温度を低減する[設置場所の室温と外気温を見合いする]。 (節電効果:単機における吸気温度10℃低減時)			×	2 %	=	0.3 %	☒ 4	%
負荷に応じてコンプレッサ・ポンプ・ファンの台数制御を行う。 (節電効果:コンプレッサ5台システムでピーク負荷60～80%の場合)			×	9 %	=	1.4 %	☒ 5	%
インバータ機能を持つポンプ・ファンの運転方法を見直す。 (節電効果:弁の開閉状態の確認・調整によりインバータ機能を活用し全圧が80%となった場合)			×	15 %	=	2.3 %	☒ 6	%
冷凍機の冷水出口温度を高め、ターボ冷凍機・ヒートポンプ等の動力を削減する。 (節電効果:利用側の状況を確認しながら7℃→9℃へ変更した場合)		9 %	×	8 %	=	0.7 %	☒ 7	%
一般設備(照明・空調)の節電メニュー								
照明	使用していないエリアは消灯を徹底する。	8 %	×	() %	=	() %	☒ 8	%
	白熱灯を電球形蛍光灯やLED照明に交換する。 (節電効果:白熱灯60W → ①電球形蛍光灯、②LED照明、に交換した場合)		×	①76 % ②85 %	=	①6.1 % ②6.8 %	☒ 9	%
空調	工場内の温度を28℃とする(または、風通しなど室内環境に配慮しつつ、28℃より若干引き上げる)。 (節電効果:室内温度設定を2℃上げた場合)	11 %	×	6 %	=	0.7 %	☒ 10	%
	外気取入量を調整することで換気用動力や熱負荷を低減する。 (節電効果:換気ファンの間欠運転または停止により30%導入量を低減した場合)		×	8 %	=	0.9 %	☒ 11	%
	室外機周辺の障害物を取り除くとともに、直射日光を避ける。 (節電効果:日射の影響を受ける室外機によらずをかけた場合)		×	10 %	=	1.1 %	☒ 12	%
その他の節電メニュー								
その他	デマンド監視装置を導入し、設定を契約電力△15%とし、警報発生時には予め決めておいた節電対策を実施する。						☒ 13	%
	設備・機器のメンテナンスを適切かつ定期的実施することでロスを低減する。						☒ 14	%
節電啓発	節電担当者を決め、責任者(社長・工場長)と関係全部門が出席したフォローアップ会議や節電パトロールを実施する。						☒ 15	%
	従業員の夏期の休業・休暇の分散化・長期化を促す。						☒ 16	%
	従業員に対して、家庭での節電の必要性・方法について情報提供を行う。						☒ 17	%
生産用動力の稼働シフトによる電力ピーク抑制								
稼働シフト	バッチ処理工程を早朝や夜間へシフトする(早番・遅番対応等)。						☒ 18	%
	連続処理工程を昼間から夜間へシフトする(熱処理などの加熱工程等)。						☒ 19	%
	事務作業や昼休みの時間を調整し、電力ピークをシフトする。						☒ 20	%
独自対策を追加する場合は下記に記入してください								
							☒ 21	%
							☒ 22	%
							☒ 23	%

※合計欄には実行する節電効果目安の合計を記入してください。
また、個別に計算できる節電目標がある場合は、それを加えていただいても結構です。

合計 %

ご注意 ●記載している節電効果は、機械・設備毎の消費電力に対する節電効果の想定割合の目安です。そのため、設備内容や利用状況等によって効果は異なる場合があります。●空調については電気式空調を想定しています。●節電を意識しすぎると、保健衛生上、安全上及び管理上不適切なものとならないようご注意ください。
※節電行動計画は建物の実質的な使用責任者と建物の管理者が協議のうえ作成してください。

ーオフィスビル 記入例ー

節電効果は、一般に単純に合計
できませんが、本例では、他の
対策も盛り込むことにより、単
純合計した効果(△19%)が達
成できると見込んでいます。

ピーク時電力(kW)を15%
以上削減する目標を立てま
しょう。
※ピーク時電力の把握が困難な需要
家は、月間使用電力量(kWh)で目標
を設定しても結構です。

事業者名	株式会社〇〇商事△△営業所	節電目標	昨年夏ピーク比で△19%
責任者名	節電 大作	節電実績	

5つの基本アクションをお願いします		建物全体に 対する 節電効果目安	取組 チェック	個別に計算 できる場合の 節電目標
照明	執務エリアの照明を半分の明るさに引き下げる。	6.7%	☒	6%
	使用していないエリア(会議室、廊下等)は消灯を徹底する。	3%	☒	3%
空調	執務室の室内温度を28℃とする(または、風通しなど室内環境に配慮しつつ、28℃より若干引き上げる)。	2.7%	☒	2%
	使用していないエリアは空調を停止する。	2%	☒	%
OA機器	長時間席を離れるときは、OA機器の電源を切る。	3%	☒	3%
さらに節電効果が大きい以下のアクションも				
空調	室内のCO ₂ 濃度の基準範囲内で、換気ファンのよって外気取入れ量を調整する(外気導入による)。	5%	☒	%
	日射を遮るために、ブラインド、遮熱フィルム、ひすいシート等を使用する。	3%	☒	3%
	冷凍機の冷水出口温度を高め設定し、ターボ冷凍機、ヒートポンプ等の動力を削減する(セントラル式空調の場合)。	2%	☐	%
その他	複数の事業者で交代で休業する。 (7グループに分けて、輪番で週二日休業した場合)	0%	☒	%
メンテナンスや日々の節電努力をお願いします				
照明	昼休みなどは完全消灯を心掛ける。4分の1の照明を従来の蛍光灯からHf蛍光灯に交換する。	2.4%	☒	%
	従来の蛍光灯を、高効率蛍光灯やLED照明に交換する。(従来の蛍光灯からHf蛍光灯または直管形LED照明に交換した照明電力量の約40%消費電力削減。2.4%×(1/4)×40%=約0.2%)	0.2%	☒	2%
空調	フィルターを定期的に清掃する(2週間に一度程度が目安)。		☒	%
	電気室、サーバー室の空調設定温度が低すぎないかを確認し、見直す。		☒	%
	室外機周辺の障害物を取り除くとともに、直射日光を避ける。		☒	%
	電気以外の方式(ガス方式等)の空調熱源を保有している場合はそちらを優先運転する。		☒	%
	朝の涼しい時間帯から設備を起動したり、分散起動すること(複数台数の場合)により、立上げによるピーク電力上昇を抑制する。		☒	%
コンセント 動力	エレベーターやエスカレーターの稼働を半減または停止する。		☒	%
	電気式給湯機、給茶器、温水洗浄便座、エアタオル等のプラグコンセントから抜く。		☒	%
その他	自動販売機の管理者の協力の下、冷却停止時間の延長等を行う。		☒	%
	デマンド監視装置を導入し、設定を契約電力の△15%とし、警報発生時に予め決めておいた節電対策を実施する。		☒	%
その他	コージェネレーション設備を所有している場合は、発電優先で運転する。		☒	%
			☒	%
従業員やテナントへの節電の啓発も大事です				
節電	ビル全体の節電目標と具体的アクションについて、関係全部門・テナントへ理解と協力を求める。		☒	%
	節電担当者を決め、責任者(ビルオーナー・部門長)と関係全部門・テナントが出席したフォローアップ会議を実施する。		☒	%
	長期の休業・休暇の分散化・長期化を促す。		☒	%
	従業員・テナントに対して、家庭での節電の必要性・方法について情報提供を行う。		☒	%
			☒	%
独自対策を追加する場合は下記に記入してください				
			☒	%
			☒	%
			☒	%
合計				19%

※合計欄には実行する節電効果目安の合計を記入してください。
また、個別に計算できる節電目標がある場合は、それを加えていただいても結構です。

●記載している節電効果は、建物全体の消費電力に対する節電効果の想定割合の目安です。●空調については電気式空調を想定しています。●一定の条件の元での試算結果ですので、各々の建物の利用状況により削減値は異なります。●方策により効果が重複するものがあるため、単純に合計はできません。●節電を意図しすぎるあまり、保健衛生上、安全上及び管理上不適切なものとならないようご注意ください。
※節電行動計画は建物の実質的な使用責任者と建物の管理者が協議のうえ作成してください。

一製造業 記入例一（出版印刷の場合） ※飲食業の場合も、製造業の記入例をご参照ください。

- 製造業の方は、左記のオフィスの記入例もあわせてご覧ください。
- 業種によって電力消費の内訳が異なるため項目によって計算が必要となります。
- ①電力消費の内訳(%) × ②節電効果目安(%) = ③節電効果目標(%)

※記入は必須ではありませんので、不明の場合は空欄でも構いません。

事業者名

株式会社〇〇出版

責任者名

節電 計子

節電目標

昨年夏ピーク比で△16.2%

節電実績

ピーク時間の電力消費内訳【構成比】

×

機械・設備毎の節電効果目安

=

建物全体に対する節電効果目標※小数点2位以下は四捨五入

取組

チェック

個別に計算できる場合の節電目標

生産設備の節電メニュー

不要または待機状態にある電気設備の電源オフ及びモーター等の回転機の空転防止を徹底する。

49%
43%

×

(5)%

=

(2.2)%

✓¹

2.2%

電気炉、電気加熱装置の断熱を強化する。
(節電効果:保温施工の実施例)

8%
8%

×

7%

=

0.6%
(0.6)%

✓²

0.6%

ユーティリティ設備の節電メニュー

使用側の圧力を見直すことによりコンプレッサの供給圧力を低減する。
(節電効果:単機における0.1MPa低減時)

8%×7%=
8/100×7/100=
56/10000=0.56%
(小数点2位以下は四捨五入)

コンプレッサの吸気温度を低減する【設置場所の室温と外気温を見合いする】。
(節電効果:単機における吸気温度10℃低減時)

25%
25%

×

9%

=

1.4%
(2.3)%

✓⁵

2.3%

インバータ機能を持つポンプ・ファンの運転方法を見直す。
(節電効果:弁の開閉状態の確認・調整によりインバータ機能を活用し全圧が80%となった場合)

×

15%

=

2.3%
(3.8)%

✓⁶

3.8%

冷凍機の冷水出口温度を高めに設定し、ターボ冷凍機・ヒートポンプ等の動力を削減する。
(節電効果:利用側の状況を確認しながら7℃→9℃へ変更した場合)

9%
4%

×

8%

=

0.7%
(0.3)%

✓⁷

0.3%

一般設備（照明・空調）の節電メニュー

照明

使用していないエリアは消灯を徹底する。

8%
7%

×

(10)%

=

(0.7)%

✓⁸

0.7%

白熱灯を電球形蛍光灯やLED照明に交換する。
(節電効果:白熱灯60W → ①電球形蛍光灯、②LED照明、に交換した場合)

7%
7%

×

①76%
②85%

=

①6.1%
②6.8%
(5.3)%

✓⁹

5.3%

空調

工場内の温度を28℃とする（または、風通しなど室内環境に配慮しつつ、28℃より若干引き上げる）。
(節電効果:室内温度設定を2℃上げた場合)

×

6%

=

0.7%
()%

✓¹⁰

%

外気取入量を調整することで換気用動力や熱負荷を低減する。
(節電効果:換気ファンの間欠運転または停止により30%導入量を低減した場合)

11%
13%

×

8%

=

0.9%
(1)%

✓¹¹

1%

室外機周辺の障害物を取り除くとともに、直射日光を避ける。
(節電効果:直射日光の影響を軽減し、機器の発熱を抑制する)

×

10%

=

1.1%
()%

✓¹²

%

合計

16.2%

※合計欄には実行する節電効果目安の合計を記入してください。
また、個別に計算できる節電目標がある場合は、それを加えていただいても結構です。

●記載している節電効果は、機械・設備毎の消費電力に対する節電効果の想定割合の目安です。そのため、設備内容や利用状況等によって効果は異なる場合があります。

●空調については電気式空調を想定しています。

●節電を意識しすぎるあまり、保健衛生上、安全上及び管理上不適切なものとならないようご注意ください。

※節電行動計画は建物の実質的な使用責任者と建物の管理者が協議のうえ作成してください。

表 業種別電気負荷設備容量構成比(例)

	空調	照明	コンプレッサ・ポンプ・ファン	冷凍機	電気炉・電気加熱装置	その他生産設備等	合計
金属加工	13%	4%	25%	3%	9%	46%	100%
食料品	8%	10%	10%	22%	9%	41%	100%
出版印刷	13%	7%	25%	4%	8%	43%	100%
電気機械	18%	5%	11%	5%	13%	48%	100%
一般機械	6%	16%	10%	8%	2%	58%	100%
輸送用機械	10%	7%	9%	9%	6%	59%	100%
上記6事例の平均	11%	8%	15%	9%	8%	49%	100%

※上記表の構成比をご参考いただき、「ピーク時間の電力消費内訳」欄に数字をご記入ください。

※不明な場合は、欄中に記載されている値をご使用ください。

20